

# 施設評価シート

日時:2024年12月5日(水) 12:00~14:30

場所:日善幼稚園

## 【評価者】 敬称略

学識経験者他園園長（2名） 山下祐史朗 岩切華代 自園保護者（2名）今立俊輔、伊藤智子

【幼稚園側】運営委員（1名）宮原信孝 設置者 西川晶子 自園園長 竹田孝一

欠席 鹿毛 里砂主任

## 【学校関係者評価】

学校関係者評価は、保護者、地域住民などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行う。

### 1. 本園の教育目標

幼児期の子どもたちに必要なのは、何よりも心を育むことです。日善幼稚園の先生たちはキリスト教精神のもとに、目の前の子どものあるがままを受け入れ、一人ひとりに寄り添います。そして、子どもたちが本来持つ個性や才能を伸ばせるように、見守り、助ける存在です。

多様性とグローバルを大切に、「一人ひとりのあるがままを大切に」しています。

### 本年度の取り組み目標と取り組み状況

- ・保育の質の担保
- ・多様性とグローバルを大切
- ・幼稚園施設の改善

### 評価項目への取組みと達成状況

高←低  
評価：A B C

評価項目	取組状況	評価
1. 保育の質の担保 ・全職員間の情報の共有や、疑問、質問事項等の共有に努める	・朝礼、終礼、毎週水曜日に職員会議との打ち合わせをし、情報の共有に努めるようにしている。そこで出たことを改善し、よりよい保育環境を整えるために努力している。 ・保育の質の深めのために積極的な内部研修、加算による研修義務による講座に出席している。今後、内部研修を深めていきたい。今期は園長による「ルーテル教会の保育」、柴田愛子先生を迎えて保育について学んだ。 ・預かり保育については、保育標準時間（9:00-14:00の保育）と変わらない保育環境、質を提供できるかが課題として残る。保育標準時間と同等の質ではなく、預かり保育独自の保育の質の提供をしてけるかを模索する必要があるかもしれない。 ・預かり保育職員の確保が大きな課題としてある。正規での預かり保育職員の採用も検討していきたい。	B
2. 保護者同士の交流の場の提供 ・共働き世帯が増えてきた中で、一昔前の様に保護者同士の交流の場の提供が難しくなっている	・今年、幼稚園の昨年の状況を考え、一旦、保護者会を休み、保護者連絡協議会を作った。今まで保護者会が自主的に担ってきた活動を幼稚園が計画し、連絡をし、実行するという複雑さがあったが、保護者連絡員が協力をして	

<p>る。 難しくなっているが、変わらぬ、交流の場の提供、そして別の形によって保護者同士が交流できる場を提供するよう努める。</p>	<p>活動をした。運動会、卒園式と協力をいただき保護者同士の交流が出来た。 しかし、十分な交流の場が設けられなかった。 その中で普段中々幼稚園や、同学年の保護者、学年を越えての保護者同士の交流が図れない方との交流が図られ、専業主婦、共働き世帯の保護者同士も交流できる場を今後、提供できるようにしたい。 ・その他にも、懇談会、子育て交流会を開催し、できる限り保護者が参加できる環境を提供し続けている。</p>	<p>B</p>
<p><b>3. 幼稚園施設の安全対策、運営</b> ・老朽化した建物、室内の設備など改善した。子ども達が、特に発達特質の子どもが安全安心に幼稚園生活を送ることができるよう努める。 ・良い保育環境の提供を常に考える</p>	<p>・安全に生活出来るように古くなった保育室の改修の設計をたてている。 この設計に基本として、環境を整えていく計画書を作る予定である。 ・老朽化による落下した園舎外壁タイルの改修工事をした。 ・発達特質の園児が安全に生活を送れるように改善してきた。自分で出来る改善は自力でしてきた。 ・目から子どもたちが季節を感じるように花壇を整備してきた。</p>	<p>A</p>
<p><b>4. 子どもの育ちの共有</b> ・毎月の月案・保育の反省 ・子どもの成長面、課題面を職員間で共有、援助。 ・療育の先生と連携。 ・預かり保育の職員と、子どもの事を密に共有。</p>	<p>・早朝から通常保育、預かり保育へと子どもの状況（怪我や、どんな遊びをしていたか等 ヒアリハットの作成）を共有できるようにしている。 ・発達特質の園児が安全に生活を送れるように療育の先生と交流をしている。</p>	<p>B</p>
<p><b>5. 教育目標</b> ・心を育てることを最も大切にしている。「大人がどう育てたいかではなく、その子がどう育とうとしているかをよく見る」こと。一人ひとりと向き合い、寄り添い、年齢に応じた適切な指導が保育者たちによってなされるよう努める。</p>	<p>・子どもの遊び方について危険だから禁止する、もったいないから禁止する等大人の気持ちを優先ではなく、子どもがどうしたいのを見て援助するようにし、判断に迷った際は他の先生と共有し話し合うようにし、そのうえでどうするかを考えていく方向に向かっているが十分ではない。 ・決めつけはせず、時間がかかろうとも子ども達一人ひとりの気持ちを聞き、寄り添うことが出来るように努力している。 ・「いと小さき者にしたりは、我にしたり」というイエスさまのお言葉を大切にし、障がいを与えられている子ども、アジア、特にフィリピンの子どもたちを受け入れてきた。多様性と多文化（グローバル）の幼稚園と存在したい。</p>	<p>B</p>
<p><b>6. 研修への取り組み</b> ・外部研修に積極的に参加し、今の自分の中の保育観にとらわれることなく研鑽を積むよう努める。 また、内部研修を通じて保育目標や、幼稚園の目指す保育の共有に努める。</p>	<p>・職員には外部研修には積極的に参加していただいくようにしている。無料の研修だけでなく、お金がかかっても自身が受けたいと思う研修には園から研修費を出し、参加してもらうようにこれから薦めていきたい。 ・全職員での内部研修を実施。 今年度は、次年度へむけての保育内容を決めるために2025年3月に実施したい。研修を通して、情報の共有、保育者の質の向上を目指し、当園が大切にしている教育を職員のチーム全員で実行できるようにしていきたい。</p>	<p>B</p>

<b>9.感染症への対応・対策</b> ・感染対策の徹底 ・感染者が出た際のスキームの作成 ・保護者へ情報の発信、共有	・手洗い、部屋の消毒、掃除、換気等引き続き感染対策をしている。 ・空調の季節ごとの掃除を実施。 ・今年度感染症が流行り、自主登園の判断をした。自主登園や、学級閉鎖、幼稚園閉鎖の基準は保護者にお知らせをしている。	A
--	---	---

## 2. 総合的な評価

評価	理由
B	<p>・課題は多く残るが着実に改善を図ってきたと感じている。</p> <p>【保育実践の基本的な流れ】として、発案→共有→実践→振り返り→改善→発案のサイクルがあり、課題に取り組むことは大きなエネルギーを必要とすることだが、課題があること、発生すること自体は、保育の見直し、環境の見直し、保護者との関係の振り返り等の機会となり良いことだと考えている。</p> <p>それが本園の魅力を更に強め、強みになっていき、職員の質の向上につながると感じている。</p> <p>まだまだすべてにおいて改善しなければならないが、希望をもって運営していきたい。</p> <p>「苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」ローマ人への手紙5：3－5</p>

### 3. 施設関係者評価委員の意見

○いろいろと保育を考えてくださっていることが分かり、安心をした。

幼稚園の運営や方針について直接聞いてよかった。

評価シートの各項目では課題もみられますが改善に向けて動いているのが伝わり、今後も安心して子どもをお願いしたいと思った。

○「一人ひとりのあるがまま大切に」という部分は普段から意識してやっていると感じています。

給食のことも入園前は、主食、トマト、とうふ、バナナくらいしか自分で食べずかじり食べもできませんでした。

他園で相談した時は一つ下のクラスの子も自分で食べているのでとだけ言われ絶望しましたが、こちらの親子プレイでは、出来ない所をサポートすればいいさけでだから大丈夫、その子のあるがままでいいんですよと言われて救われました。

○勉強的な決められたことが少なく自由な遊びの中らの学びができるようにされていて良い環境であり担任の先生が子供ことをしっかり見て上手にされていると 5 回訪問した療育・支援の先生が言われていた。

○発達特性について相談する時間を作ってもらい対応も早く、年少でも療育後の登園が出来るようになり助かっています。

○通常保育の中で手間のかかることを当り前にできるのはすごいと思いました。

○担任と幼稚園の様子、相談ができると安心でき、来年度よりその環境を整えていくということが嬉しい。

○行事の時の持ち物を通園バスの先生に確認したときも、先生が答えられるように情報を共有していただけると嬉しい。

○委員会で幼稚園の理念が伝えられ、理念の実践に取り組まれていると思った。

○先生方が一生懸命に教育、保育に取り組んでおられる。先生方の働きが、それぞれの人生につながり、豊かになるように願っている。

○先生方と交流を短期、長期にわたって深めていく場で、話し合い共に幼稚園を作っていきたい。

○多国籍の園児が多く、また発達特質の園児が平均より多くいることに驚いている。先生方が大変だなあと感じている。

○言葉が通じ合うということは大変に大切であり、課題がある。多国籍の園児を手厚く支援をするようにしてほしい。

○ことを伝えていくのに視覚化することは大切し、視覚されたユニバーサル化されたものを使用されると良い。

○幼少連携、今通っている療育との連携を丁寧に、大切に、具体的に相手に連絡してほしい。

○保育者にも調べられる発達特質の簡単なシートが出来たので、提供してよい。

○多言語化の幼稚園の中で、言語交流をしていくようにしてみたい。

歌を互いの言葉で、交わしあうように、標示を多言語に表すなどしてはどうか。

○日善幼稚園の基本理念、「一人一人の子どもを大切に」ということを再確認した。この基本理念を具体的に毎日の教育、保育の表現していくように努力してほしい。具体化する中で保育者が互いに意見を交換して、また補い合って実現して欲しい。

○保護者と先生の交流、保護者と保護者の交流できる場が出来るようにしていただきたい。

※委員会後いただいたご意見も加えました。

#### 4. 来年度の取り組むこと

- 幼稚園の「理念」の研修を繰り返し、共有する。 「一人ひとりのあるがまま大切に」
- 多様性、多言語化をすすめていく。障がい者と健常者という多様性、日本人と外国人という多言語化を行っていく。「と」ということでなく、みなが自然に安心して幼稚園の中で、生活出来る場を目指す。  
言語交流をしていく工夫。視覚されたユニバーサル化
- 保育の質の向上に常に努めるよう研修等今後も積極的に参加していく。
- 先生同士の情報の共有へのさらなる工夫する。
- 担任と幼稚園の様子、相談ができるよう工夫をする。
- 保護者とのコミュニケーションをさらによくし、園の姿を伝えていく努力をおしまない。  
保護者と先生、職員、保護者同士の交流の場を作っていく。
- 子どもたちが、安全安心に幼稚園生活を送ることができるよう老朽化した建物、室内の設備など改善に努め、良い保育環境の提供を常に考え、具体的な長期修繕計画書の作成する。
- 食育：自園給食を目指したい。